



認知症



認知症とは？

認知症とは、病名ではなく、様々な原因で脳の細胞に障害が起こり、記憶力、学習力、判断力などが低下して、日常・社会生活に支障が出ている状態を言います。高齢化が進むにつれて急増しています。

認知症を引き起こす病気は、脳の神経細胞がゆっくり減っていく「アルツハイマー型認知症」「レビー小体型認知症」や、脳の血流が途絶えることによって起こる「脳血管性認知症」などがあります。この中で「アルツハイマー型認知症」は認知症の原因疾患の中で最も多く、認知症の半数以上を占めます。

認知症の治療

薬物療法

アルツハイマー型認知症に使われるお薬は、病気を根本的に治す薬ではありませんが、症状の進行を抑える効果があります。お薬のタイプには、口の中で溶ける薬(崩壊錠)や貼り薬、ゼリー剤など様々あります。使いづらい場合には、医師や薬剤師に相談しましょう。

リハビリテーション

リハビリテーションによって残された脳の機能に刺激を与えて活性化させる治療です。対話や音楽などを通じて脳を活性化させるなど、症状に合わせて行われます。

認知症の人の介護

認知症の人の介護をする際には、視覚や聴覚、味覚、嗅覚、触覚といった、五感を刺激するように心がけましょう。脳が発動され、機能が活性化します。

視覚	パジャマの色やデザインを毎日変える。絵画やポスターを壁に貼る。
聴覚	好みの音楽をかける。子どもの頃に習った歌を歌う。
味覚	好物を献立に加える。
嗅覚	アロマオイルを使用する。入浴剤を使用する。
触覚	全身のマッサージ。手のひらのツボを刺激する。

このように日々の生活を工夫して行うことで、症状が改善する場合があります。なによりも認知症の人と介護者のコミュニケーション、生活を楽しむためにも五感を刺激することは有効です。

ひょっとしたら認知症？

認知症は、早期診断と早期対応が非常に大切です。「あれ？」と思ったら、早めに専門の医師にご相談ください。

自分でできる認知症のチェックリスト

- Q1 財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか
- Q2 5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか
- Q3 今日が何月何日かわからないときがありますか

- Q4 一人で買い物に行けますか
- Q5 電話番号を調べて、電話をかけることができますか

※東京都福祉保険局「とうきょう認知症ナビ」から一部引用

【参考文献】 1) 岡庭豊 編:薬がみえる本vol1 (メディックメディア) 2) 厚生労働省:認知症への取り組み 3) 東京都福祉保険局:とうきょう認知症ナビ